

2016年5月25日

トヨタ自動車、Uber社とライドシェア領域での協業を検討開始

トヨタ自動車(株) (以下、トヨタ) は、Uber Technologies, Inc. (以下、Uber社) と、ライドシェア領域における協業を検討する旨の覚書を締結した。両社は今後、お客様のニーズやビジネス環境、規制動向などを踏まえつつ、海外でライドシェアビジネスが拡大している国・地域において、試験的な取り組みを始めながら、協業を模索していく。また、今回の合意を通じ、トヨタファイナンシャルサービス株式会社 (TFS) および未来創生ファンド*から、Uber社に戦略的出資を行う。

近年、お客様のクルマの使用習慣の変化に伴い、カーシェアリングの他、クルマの保有者自身がドライバーとなって利用者を乗せる、ライドシェアのような新たな移動提供サービスが、多くの国・地域において急速に発展している。今回の合意を受け、今後両社は、こういった領域での新しい価値・サービスの提供を目指し、協議を進めていく。

具体的な取り組みの一つとして、両社は、TFSがお客様に車両をリースし、お客様がUberドライバーとして得た収入からリース料をお支払いいただくサービスを構築する。Uber社が現在ドライバー向けに提供している、車両導入を支援する「Vehicle Solutions」プログラムに基づき、リース期間は、お客様のニーズに応じて柔軟に設定可能とする予定。

今回の合意にあたり、トヨタの専務役員で「コネクティッドカンパニー」プレジデントの友山茂樹は「ライドシェアは、未来のモビリティ社会を創造する上で大きな可能性を秘めている。Uber社との協業により、安心、便利で、魅力的なモビリティサービスをお客様にお届けすべく、検討を進めていきたい」と述べた。

また、Uber社のチーフ・ビジネス・オフィサーの Emil Michael (エミール・マイケル) 氏は「グローバル規模のパートナーシップの一環として、世界最大の自動車会社であるトヨタが当社に戦略的投資を行うことを、喜ばしく思っている。トヨタのクルマは世界各国のUberドライバーから大変好評を博している。今後、当社の自動車融資プログラムの拡張をはじめ、トヨタと様々な形で協業していきたい」と語った。

今後両社は、Uberドライバー向けの車載アプリの開発、両社それぞれの研究活動に関する知見の共有、トヨタ・レクサス車のUber社へのフリート販売など、様々な領域で協業の可能性を検討していく。

* <http://newsroom.toyota.co.jp/jp/detail/10140379/>

以上